栄養法と精神発達に関する研究

日本総合愛育研究所　高　橋　種　昭

栄養法が児の精神発達に如何様な関係にあるかをみると共に，育児態度と栄養法との関係について調査を通じて明らかにすることが本研究の目的である。

調査方法としては，次の如きテストと質問紙調査，面接調査によった。

テストの内容：

生後１カ月から12カ月までの乳児に対し，毎月テストを実施し，その発達をみる。テストの項目は各年令段階とも２項目であり，実施が容易なものを既存の乳幼児精神発達検査から抜すいして使用した。調査対象児は，全国の病院に健診のために来所した正常児であり，母乳グループ，人工栄養グループ，混合栄養グループ各々 600名である。（ P. 55，56，調査表参照 ）

質問紙調査の内容：

育児態度に関した質問紙調査は，親の育児態度が受容的であるか拒否的であるか，安定しているか不安定であるか，育児についての悩みや不安をどのような方法で解決しているか，夫は育児にどの程度関心をもち，どの程度協力してくれるか，母乳，人工栄養について指導を受けたかどうか，などの項目からなっており，育児態度の傾向は過保護型，他人依存型，厳格合理型，理想型の４つのタイプに分類が可能である。

これらの調査を通じ，児の栄養法が精神発達にどのような影響を及ぼすかを明らかにすると共に，栄養法と母親の育児態度がどのように相互的なかかわりをもっているかについて，その関係を解明してゆく予定である。

なお，母乳を徹底的に拒否するような問題ケースについては，面接を継続して行い，その背景要因や動機などについてくわしい調査を実施中である。現在はテストと質問紙調査を全国の病院に依頼し，実施中であり，事例研究についても愛育病院の保健指導部に来所したケースを中心に面接調査を行っている。

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

栄養法が児の精神発達に如何様な関係にあるかをみると共に，育児態度と栄養法との関係について調査を通じて明らかにすることが本研究の目的である。